


ふりがな 氏名	かつまた ひでのり	都道府県	神奈川県	
	勝間田 秀紀			
所属/肩書	昭和女子大学附属昭和中学高等学校 / 教諭			
私の ESD活動	高等学校での校内模擬国連活動を通じた、高校生の国際意識の醸成と交渉力・合意形成力の育成			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私の勤務校では、学園目標として近年「グローバル」を掲げ、幼稚部から大学まで国際協力、国際理解のための種々の活動をまさに推進中である。その中で、中高部(特に高校生を中心)の活動の一つとして、学校内において、グローバルクラスルーム日本委員会のスタディプランを参考に「模擬国連校内会議」を開催した。基本的には模擬国連大会の活動と同じように、ある議案を、国別に分かれた高校生が2人1組で参加し、会議の中で担当国の立場に立った議案の提出、話し合いを行い、最終的に一つの決議を行うという形式で進めた。回数を経るにつれて、国連の立場や国際問題への取り組みなどをお互いに調べていく啓発の場としても出来上がっていった。

模擬会議を校内で運営、開催して感じるのは、参加している高校生の熱心さと、交渉力の大きな進歩である。初めは拙かった合意形成能力、他との交渉力が場数を踏むことによって飛躍的に成長している。資料を集めて原稿を作るなどの作業ははじめからしっかりできている者も多いが、自ら考えた問題解決の方法や意見を人に発信する力、人を説得する力は、会議の場数を踏んでいくうちに進歩が大きくみられ、見ていて非常に面白い。プレゼンテーション能力、問題のリサーチ能力、「合意」というゴールのもとで問題を解決しようとする能力の向上を目指し、従来のディベートよりも一歩上を目指しての取り組みを行っている。現在は、まだ実践できてはいないが、すべてを英語で行うプレゼンテーションなども外国人教員の協力を仰いで企画している。目標は「高校生のための模擬国連大会」への出場である。日本人は交渉が不得手であると言われて久しいが、ESDを進めることによって、日本の若者の交渉力・外交力を飛躍的に高め、それが将来の国際交流・国際協力を担う主体としての意識を育てていくことができると感じている。

今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

若者が担うことができるのは、その多様な経験から醸成された新しい国際協力、国際交流であると思う。私は職業が職業なので、どうしても若者を育てるという視点で考えてしまうが、現在、国際交流・国際協力などは様々な学校で種々の機会が設けられており、学ぶ機会やその種類は多岐にわたっている。生徒が国際活動の道に入る機会が多様であるといえる。そうした充実した環境で視野を広げてきた若者ならではの国際協力に大きな期待が持てる。現在は SNS などのツールを用いることで「世界」がこれまでよりも非常に近くなっている。そうした環境の中で育ってきた若者どうしでは、それまでの世代とは全く違った、新しく、若者にしかできない視点による交流ができるのではないかと感じる。例えば Facebook など若者ならではの視点から生まれたコミュニケーションツールであり、世界の若者でそうした交流の輪が広がっていけば、行える国際協力には広い可能性があると考えている。